

年間第 7 主日 (ルカ 6:27-38)

チャンスを活かしきるのは神。敵を愛するまで



「敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にきなさい。」(6・27) イエスは、ご自分の深い愛に満ちた活動を弟子たちに示しながら彼らと過ごしてきました。「わたしの言葉を聞いているあなたがたに言うておく」この「あなたがた」が弟子のことですから、弟子たちはきっとイエスから「人を愛しなさい」という掟を命じられるだろう、それくらいは想像できたと思います。

しかし、「敵を愛しなさい」と命じられるとは思っていなかったでしょう。誰を愛するか、考えるチャンスを与えられましたが、「敵を愛する」というのは思い浮かばないからです。「人を愛しなさい」という命令だったら、「準備はできています」と答えられたのに、「敵を愛しなさい」と命じられて不意を突かれた。弟子たちの反応は、今週の朗読以降にも見つかりません。困り果てていたことが暗に示されています。

「どのように行動するか」を選べる。そういうチャンスを与えられているときに、どれを選ぶか考えていたけれども、「これを選んでください」と示されたのが、全く考えになかったものだった。そういうとき私たちはどうやって受けとめたら良いのでしょうか。

さて、今日は2月23日ですが、ここだけの話、年数が長くなっている長崎教区の司祭たちは、次の赴任地についていろんなことが頭をよぎっていると想像しています。だいたい、御復活の2ヶ月前は、予備の通知が来て、御復活の1ヶ月前には正式な通知が来ます。

長崎教区では司祭が「任地」について希望を出す習わしがありません。それでも「移動の可能性のある司祭たちはこれくらいの人数だろう。そうなる行き先になりそうな教会はこことか、ここになるのかな」みたいなことは、漠然と考えているだろうと思っています。

しかし、イエスが弟子たちに「敵を愛しなさい」と命じられたように、「いやそれは考えてなかった」という任命を渡されることは十分あり得ます。かく言う私は「福江教会」の任命を受けたときに、ほかにもたくさん付随していることを十分理解していませんでした。つまり、浜脇教会と井持浦教会の主任司祭も兼務です。

さらに下五島地区の地区長です。肩書きが増えただけでなく、会議の数も小教区評議会、顧問会、地区評議会など、ぐっと増えてきます。考えてなかったことも含めて「愛しなさい」とイエスは言われるのです。

もうすでに目が回りそうですが、今回私には助祭があてがわれて、助祭を無事司祭に育てて送り出す。その務めもすぐにやって来ました。思ってなかったことが次々にやって来た。「これも愛しなさい。あなたが考えもしなかったことかもしれないが、愛しなさい」そう言われていると感じます。

できないなりに務めを果たしてみようと思うのは、与えられたチャンスを活かしきるのは人間ではなくて神なのだということです。下五島地区

全能の神よ、聖なる福音をふさわしく告げるため、わたしの心と口を清めてください。

に来て「愛しなさい」という新しいチャンスを与えられましたが、私個人ではそれを活かすのは難しいことでした。人間ですから、したいことしたくないこと、興味のあることないこと、いろいろあります。

しかしそんな小さな器しか持ち合わせていない人間をたくさん働かせるのは、やはり神様なのだと思います。「人を愛しなさい」は分かりますが、「敵を愛しなさい」は理解できません。「人を愛する」というチャンスを活かしきり、人間が思いも付かない所まで幅を拡げてくださるのは、神なのです。

私たちは、それぞれ置かれた場所があります。「人を愛しなさい」ということは当然のことですが、イエスはその命令を完成させてくださいます。私たちにはとても思い付かない「敵を愛しなさい」という形まで、幅を拡げて、完成させてくれるのです。

あなたは、置かれた場所で誰を愛しますか。誰に親切にしますか。誰にだったら祝福を祈り、誰のためだったら祈れますか？完成させてくださるイエスの招きに信頼して、「あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい」(6・36) この高みを目指して歩んでいきましょう。

年間第8主日(ルカ 6:39-45)

福音のことばによって、わたしたちが罪から清められますように。